

第29回研修会開催報告

KSCD 事務局

京滋コンクリート診断士会では、第29回研修会を以下のとおり開催しました。

当日は大勢の方のご出席を頂き、盛況裏に終了できました。ご出席頂きました皆さまのご支援とご協力に感謝いたします。

1. 日 時：令和4年8月1日（月）午後1時20分～午後4時45分

2. テーマ：「人と暮らしを護るために」

3. 開催場所：ひと・まち交流会京都 2F 大会議室

講 演：①「JR 西日本におけるコンクリート構造物の維持管理の取り組み」

西日本旅客鉄道(株)技術理事 鉄道本部 構造技術室長 村田 一郎 氏

②「来るべき巨大災害に備える」

神戸大学名誉教授 室崎 益輝 氏

③ 15301620 「道路施設の老朽化対策について」

国土交通省 近畿地方整備局 道路部 道路保全企画官 大坪 裕 氏

【講評】京都大学大学院 工学研究科社会基盤工学専攻 本会顧問 山本 貴士教授



▲高井 会長の挨拶



▲西日本旅客鉄道(株) 村田 一郎氏の講演



▲神戸大学 室崎 益輝名誉教授の講演



▲近畿地方整備局 大坪 裕氏の講演



▲講演時の会場風景



▲京都大学大学院 西山 峰広教授の挨拶



▲京都大学大学院 山本 貴士教授の講評

会場は高瀬川の川沿いに位置し、市街地の中心部よりはまだ恵まれた場所と言えますが、それでも当日の京都市内は35度を超える猛暑日でした。

この炎天下の中、会場に足を運ばれた会員の意欲に応えるべく講師の先生方は、熱心に演題を講演いただきました。

研修会は冒頭、異例の4名ものご参加をいただいた顧問の先生方（岡本先生（立命）/西山先生（京大）/宮川先生（京大）/山本先生（京大））の紹介を交えた高井会長の挨拶で始まりました。

1題目は、西日本旅客鉄道(株)技術理事の村田 一郎氏による講演でした。

JR西日本の鉄道構造物の約8割が戦前に建設されたものであり、この傾向は他のJR各社に於いても同様である。50年を構造物の寿命と見る意見もあるが、海外の事例では150年供用している橋梁もある。

この事から、鉄道分野では築50年は人に例えれば20歳の若者で、鋼橋であれば150年程度の寿命があると見ている。そして50年で老朽化したのであれば、それは老朽化させたとはい換えられる。つまり施設の寿命はメンテナンスに左右される。とメンテナンスの重要性と取組みについて講演いただきました。

2 題目は、神戸大学 室崎 益輝名誉教授による講演でした。

現在は、気候変動や地殻変動のみならず生物感染や他の要因で、災害が長期化、複合化している。この様な災害の進化は、同時に、防災の進化する機会であり、防災のレベルアップ、質的転換が必要である。

しかしながら、現在の危機管理は絵に描いた餅で、達成目標(何時までにどの程度の達成率など)の数値化が示されていない。そのうえで減災を考える時に重要な点は、事前投資として建物の耐震対策を早急に行うこと。洪水に対しては霞堤のように小規模な氾濫を計画的に発生させ、大規模な氾濫を未然に防止することとの内容でした。

3 題目は、近畿地方整備局 道路部 道路保全企画官 大坪 裕氏による講演でした。

橋梁、トンネル等広範囲に亘る道路施設に関して、国土交通省を中心とした官側の動向を説明頂きました。

また、インフラメンテナンスのための点検が、現在 2 巡目を迎えているが、今後の取組として、新技術の活用が望まれる。ただし、全て新技術で行うのではなく、新技術の長所が活用可能な箇所(例えば、浮き等が発生していない箇所、剥落しても第三者障害の発生するおそれの少ない箇所等でのドローン撮影)を下見して、十分な事前協議を行った上での実施が肝要との内容でした。

講演終了後に、本会顧問をしていただいている京都大学大学院の西山 峰広教授より、この度、JCI の第 30 代会長に就任された事の挨拶と、本会会員に対して JCI に加入すれば「コンクリート工学」等の会誌が送られてくるので、新しい知見の研鑽・収集には最適である旨のアピールもありました。

最後は、京都大学大学院 山本 貴士教授より、講演いただいた三題について、共通するキーワードは「コミュニティの重要性」であったなど、ご自身のご意見を入れながらウツクシク締め括って頂きました。

特に、国交省の取り組みのための新技術活用については、新技術が義務化することなく、活用可能な箇所を見極めて活用することが重要とのご意見でした。また本会の「コミュニティ」としての位置づけにも言及していただき、いつもながらのキレのある講評に関係者一同感心すること頻りでした。

研修会は予定通り無事終了しました。平時であれば、講師を交えて活発な意見交換会を行う所ですが、日本中で新型コロナウイルスがまん延拡大しているため会場での解散となりました。早く「コミュニティ」としての役割を取り戻せることをと願ってやみません。

皆さん、講演の内容はいかがでしたでしょうか。ご意見などありましたら、ご遠慮なく事務局までお願いします。なお、次回(第 30 回)は 2022 年 10 月 28 日と決定しています。

これからも暑い日が続きますので、体調にはくれぐれもお気をつけください。

お疲れさまでした。